

2009年3月18日

千葉北脳卒中地域連携パス研究会世話人会

兼印旛脳卒中地域連携パス会議 議事録



文責：日本医科大学千葉北総病院脳神経センター三品雅洋

参加者自己紹介

司会：日本医科大学千葉北総病院脳神経センター小林士郎先生)

日本医科大学千葉北総病院脳神経センター：小林士郎・三品雅洋

日本医科大学千葉北総病院リハビリテーション科：原行弘

新八千代病院：荒井泰助・兼村三千彦

東京女子医科大学八千代医療センター神経内科：大橋高志

船橋市立リハビリテーション病院：梅津博道

東邦大学医療センター佐倉病院神経内科：榊原隆次

千葉県共用パスの手引き

連携パスの流れ：急性期病院⇒回復期病院⇒地域生活期施設

診療情報シート急性期病院作成用・回復期病院作成用

4枚のシートのうち、まずは上の部分のみを各部署が記載し、MSWが一括して回復期にFAXする。その際、患者の名称が特定できないように一部をマスクする。

千葉県共用脳卒中地域連携パス連絡票

介護機関から医療機関に診療を依頼するときに使用する。診療情報提供書に該当する。

その他

老健施設は赤字傾向。プレタール・プラビックスをアスピリンに変える傾向にある。しかし、介護機関の包括医療では、切り替えはやむを得ない。熊本市のデータでは、6割～7割がアスピリンに変更されているという報告もある。

患者にお渡しするシート・資材（ファイル等）の費用捻出の問題は未解決、千葉県でも検討中だが、予算はない。

連携していない回復期でも利用できるのか？

⇒使用可能だが、保険点数が入らない。

県共用パスは、各地域の事情にあわせて変更可能だが、変更バージョンは届け出が必要で、次回の改訂に反映させる。

●次回の世話人会：5月27日（水）

場所：ウイシュトン・ホテル 19：00～

本会において次回の研究会の日程を決定する。